

(あらすじ)  
エピローグ。  
この旅館での事件のその後。

女将の桐華と、腹心の桔梗の会話が行われる。  
話によると、勇者は、その後、国へと戻り、  
なんとか、妻のユナを説得できた様子だったというが…？

(プレイ)  
Hシーンはありません。

=====

桔梗：  
あー、とっても、いい天気♪♪  
お洗濯日和ですね。桐華（とうか）さまっ。

ふふ…、そういえば、あのお方がいらしたのも、  
こういう…、晴れ晴れとした天気の日でしたね。  
中での出来事は、とっても、ドロドロしたものでしたけど♪♪  
ふふふつ♪

勇者様、あれから、なんとか奥様と合流されて、  
無事に、よりを取り戻せたとのことですけど…。

ふふつ。  
実は…、それがどこまで続くか、みんなで賭けているんです。  
やはり、あの勇者様ということもあって、  
私は恐らく、あと、2月（ふたつき）ほどは  
頑張るのではないかとでは無いかと踏んでいるのですが…。

桐華：  
ふふつ。  
それはちょっと…、彼を買いかぶりすぎたかも知れませんね？

私の極上の身体を知ってしまった男たちは…、んっ…♪  
例外なく、夜の生活に支障をきたしてしまって。  
満たされない想いが、  
私と交わりたいという欲望が、どんどんと膨らんで。

皆、1月（ひとつき）とたたないうちに、  
幸せな生活を投げ出して、ここへと向かってきたのですから…。  
ふふふつ。

桐華：  
私は…。そろそろだと思いますよ。  
特に一昨日は、  
珍しいところからの船が来たって話ですし。

もし、港からここを目指して、休まず歩き続けてきたのなら…、  
そろそろ、たどり着くはずです…。

かつて勇者と呼ばれたほどの、品行方正な男が。

偉大な旅を共にした、大切な人を捨てて。

そこの山道を登って。

石垣の脇の小路を抜けて。

ほら…、すぐ…、そこに……♪

ふふふつ…♪

(8話 おわり)

(秘湯！逆寝取られの湯 おわり)